

サイエンスアカデミー算数コース開催

- ◇期 日 令和3年1月23日(土)
- ◇場 所 会議室
- ◇参加者 県内の小学5、6年生 25名
- ◇指導補助 SS 数学部員 21H 村井 崇紘、24H 川田 涼士
26H 石山 智哉、松倉 優介、山村 空大
27H 川上 歩大、横山 愛子
- ◇指導者 SS 数学部顧問 笹島 浩平先生

県内の小学5、6年生 25 人を招き、サイエンスアカデミー算数コースを開催した。私たち SS 数学部員は小学生の理解を助け、算数の楽しみをより感じることでできるように補助する TA として参加した。今回は、日食といった天文現象から身近な現象までの幅広い分野で、物の見え方と角度の関係について扱った。

小学生が理解できるように、できるだけ簡単な言葉を選びながら解説するのに苦労した。それでも、図を描き工夫を凝らしながら説明した結果、納得できたような様子の小学生たちを見ると、安堵と同時に感慨に近い感情を覚えた。加えて、今回の内容に関連している「相似」という用語とその概念について説明し、今回の活動で得たものの一つとして持ち帰ってもらおうと努めた。

この活動では小学生たちを三つの班に分け、それぞれに担当として部員が数名配属される形式で、各班の進行はほとんど部員の裁量に任せられた。私は、担当した班で問題を解く合間に、今回の主題とは別に、火星と木星の間にある小惑星帯を挙げ、最近地球に帰ってきた「はやぶさ2」もここにある小惑星の一つに行っていたという話や、あまり馴染みがないように思われるメートル法における接頭辞「ヘクト」が使われる場面について質問し、天気予報で気圧を表すときに使われるという話をした。先生を補助する立場として参加している私が言うのははばかれるが、このような脱線した話をしている時が一番楽しかった。また、プログラミングに興味があるという小学生の話を聞き、自分もゲームを作っていることから、会話が弾んだのが印象深かった。

会場は終始和気あいあいとした雰囲気であり、初めは緊張した面持ちだった小学生たちも、この活動を通して、終わる頃にはコミュニケーションも活発になり、私も意欲的な小学生と接することができて、とても良い経験になった。

